

生活環境学部

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学部の教育理念】

奈良女子大学生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指しています。教育内容は、生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。学際的な教育を通じて、生活に関する専門的知見と生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す力を持ち、個人、家庭そして社会の生活を主体的に創造できる能力を持った人材を育成します。

【身につけるべき力】

- ・生活環境に関わる専門的知見と幅広い教養を持ち、生活を主体的に創造する能力。
- ・生活の諸問題について生活者の視点より分析理解し、その解決に積極的に挑戦する能力。
- ・自律的な行動と判断を行い、他者と柔軟なコミュニケーションを築き、個人、家庭そして社会の生活をリードできる能力。

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、各学科・コースごとに定める卒業要件を修めた者に学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【生活環境学部のカリキュラム構造】

生活環境学部のカリキュラムは教養教育科目と専門教育科目から構成されています。教養教育科目ではグローバルな視野を培う外国語科目、健康な生活の基礎づくりとなる保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養と創造性を身につけるための教養科目を提供しています。専門教育科目では初年次科目として生活環境学の全体像や各学科・コースで学ぶ内容を概論的に理解するための学部共通科目と学科共通科目、専門的知見を修得するための科目として学科専門科目とコース専門科目を開講しています。各学科・コースとも生活環境学部における学修の総括として、卒業研究を通じて、自身の専門分野に関する研究を深め、成果発表することを卒業のための必修要件としています。また、大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育の内容と方法】

生活環境学部の教育内容は生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。幅広い教育内容を反映して、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。多岐で多様な教育を通じ、専門性を高めるだけでなく、領域横断的でグローバルな視野をもって主体的に生活の問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。

【学修成果の評価】

授業科目に対する成績評価については、科目修了試験と平素の学習状況を総合して行います。成績評価はあらかじめ成績評価基準を明示し、厳正に判定します。なお、科目によっては、科目修了試験に替え、レポートの提出、実験や実習、演習の成果をもとに成績評価を行う場合もあります。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【生活環境学部の教育理念】

生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを發揮できる人材の育成をはかることを目指しています。教育内容は、身体や性にはじまって、衣食住に関わるあらゆる問題に及び、さらには地域や世界の環境問題までも射程に収めています。このような幅広い教育を提供するために、生活環境学部は文理融合型学部として、食物栄養学科・心身健康学科・住環境学科・文化情報学科の4学科から構成されています。学科の性格が多様であることに伴い、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。しかし、生活環境学の総合的教育という学部理念に即して、つねに生活者の視点を失わないことを重視しています。生活者の視点とは、利用者・消費者といった立場からの批判と改善の視点であり、わたしたちの生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す視点です。生活環境学部は、各学科の教育目的に応じて専門性を高めるだけでなく、学科を超えた学際的な教育を通じ、領域横断的でグローバルな視野をもって問題解決をはかる人材を育成したいと考えています。

【生活環境学部が求める学生像】

上記の教育理念にもとづき、生活環境学部は次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。

- (1) 幅広い関心と各学科が必要とする基礎的学力をもつ人
- (2) 生活者の視点をもつリーダーあるいは主体的・能動的な生活者になることを目指している人
- (3) 日常生活に対する感受性と洞察力にすぐれ、豊かな想像力をもって他者との共生・協働をはかり、社会的弱者や文化的背景を異にする他者への共感をもつ人
- (4) 社会のリーダーあるいは主体的生活者となるために、課題発見能力・問題解決能力・論理的思考力の開発に積極的に取り組む意欲をもつ人
- (5) 各学科の教育理念に即したカリキュラムを真摯な姿勢で学び、学んだ成果を、専門職・企業人・公務員・教員等として積極的に地域や社会に還元したいという意欲をもつ人

【生活環境学部における入学者選抜の基本方針】

生活環境学部では、一般選抜前期日程、一般選抜後期日程、学校推薦型選抜、総合型選抜 探究力入試「Q」、高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試、私費外国人留学生入試、第3年次編入学入試を行います。一般選抜前期日程、一般選抜後期日程、学校推薦型選抜では、高等学校における学習の基本的達成度を評価する大学入学共通テストと、求める学生像にふさわしいかどうかを評価する個別学力検査(一般選抜後期日程と学校推薦型選抜は面接)によって合否を判断します。

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考(書類選考)と第2次選考(小論文、プレゼンテーション、質疑応答など)によって合否を判断します。高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試では、奈良女子大学附属中等教育学校において、新しい高大接続のあり方のモデルを開発・発信すべく設置された高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。私費外国人留学生入試では、留学生に必要な基礎学力を評価する日本留学試験の成績と TOEFL のスコアおよび求める学生像にふさわしいかどうかを評価する個別学力検査によって合否を判断します。

第3年次編入学入試では、専門分野を学ぶのに必要な基礎学力を身につけているかを評価する筆記試験(英語、小論文)と、求める学生像にふさわしいかどうかを評価する口述試験によって合否を判断します。

生活環境学部 食物栄養学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

食物栄養学科では、食生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材を育成します。したがって、専門的知識を修得するのみならず、人々の健康増進と疾病予防のために広く社会に貢献できる能力を丁寧に養成します。学際的な教育を通じて、専門的知見と生活の質の向上につながる創造性を持ち、個人、家庭そして社会における質の高い食生活を主体的に提案できる人材を目指しています。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・食物栄養学のプロフェッショナルとして、食の観点から人々の健康と長寿に主体的に取り組む姿勢
- ・専門的で科学的な思考ができ、物の本質を考察できる能力
- ・自律的な行動と判断を行い、他者と柔軟なコミュニケーションを築き、個人、家庭そして社会の生活をリードできる能力

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、食物栄養学科の定める卒業要件を満たした者に学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

食物栄養学科のカリキュラムは教養教育科目と専門教育科目から構成されています。教養教育科目ではグローバルな視野を培う外国語科目、健康な生活の基礎づくりとなる保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養と創造性を身につけるための教養科目を提供します。これらによって、食物栄養学に関する研究課題に対して主体的に取り組み、科学的に探求する態度、論理的に思考する態度、計画的に実行する態度を身に付け、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養成します。また、卒業研究を通じて自身の専門分野に関する研究を深め、成果発表することを卒業要件とします。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育内容と教育方法】

幅広い教育内容を反映して、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。それにより、分子から細胞、組織、臓器、生体、個体・社会までさまざまな視点から食物栄養学の基礎となる知識を習得します。専門性を高めるだけでなく、領域横断的でグローバルな視野をもって主体的に生活の問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。

【学修成果の評価の方法】

授業科目に対する成績評価については、科目修了試験と平素の学習状況を総合して行います。成績評価はあらかじめ成績評価基準を明示し厳正に判定します。なお、科目によっては、科目修了試験に替え、レポートの提出、実験や実習、演習の成果をもとに成績評価を行う場合もあります。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

食物栄養学科は、食物・栄養分野において日本のリーダーとなる専門家の育成を目指しています。食物という身近な素材から人びとの健康増進、疾病予防を考え、食物の栄養性、機能性、嗜好性、安全性、食環境などについて、ライフサイエンスを基礎とした教育を行っています。その対象は、化学物質（DNA、タンパク質、脂質、ビタミン等）や細胞、微生物などのミクロ分野から、個体、ヒト集団などのマクロ分野まで多岐にわたります。また、管理栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員・管理者の養成課程を設置しており、病院や学校、保健所での実習を通して実践的教育も行っています。

【求める学生像】

食物栄養学科は、食や健康について興味を持ち、それを深く学び、将来、社会の中でそれを生かしたいと考えている学生を求めます。専門教育の内容を十分に理解するために、高等学校で化学・生物など自然科学全般に興味を持ち、学習しておくことが望まれます。また、英語は現代科学のグローバル化に伴い、食や健康に関する知識・情報などの収集・発信のために重要なスキルですので、高校生のうちに十分な能力を身につけておくよう努力してください。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身につけているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科（物理、化学、生物）から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応し、高等学校における学びの分野にとらわれず、様々なバックグラウンドを持つ受験生を受け入れています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実施し、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに食物栄養学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考と第2次選考を行います。第1次選考では、提出された調査書、学習研究計画書などをもとに、高等学校における学習の達成度、食物栄養学に対する探究心などを評価します。第2次選考では、科学的な内容の文書（英語を含む場合があります）や実験データなどを読んで作成する小論文、プレゼンテーションおよび質疑応答をもとに、積極性や表現力、食物栄養学に対する探究心などを評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学）、TOEFLのスコアと、面接により、高等学校卒業水準の基礎的学力および食物栄養学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに食物栄養学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

生活環境学部 心身健康学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

こころと身体の健康と人間を取り巻く環境との相互作用についての総合的な知識や技能を身につけ、健康や生活のあり方について考え、よりよい生き方や環境のあり方を提案することにより社会に貢献できる人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・こころと身体の健康について、総合的な知識を身につけている。
- ・専門分野での知識、科学的・論理的思考と方法論を身につけ、実践できる能力を身につけている。

【学位授与の形式的要件】

上記の資質を身に着け、所定の期間在学し、所定の単位を習得し、かつ必要な研究指導を受けたうえで卒業論文の審査に合格した学生に学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

本学科では、こころと身体の健康に関する内容を幅広く学習した後に専門性を高めるために、1-2学年ではコース分けを行わず、主に専門基礎科目を学びます。基礎力を高めるために幅広い分野の専門基礎科目が開講され、偏りのない履修をするためのルールが作られています。3 学年以上では、生活健康学、スポーツ健康科学、臨床心理学のいずれかのコースに所属し、所属したコースで開講される学科専門応用科目を主に学び、専門性を高めます。また、各コースで卒業論文作成に向けて研究指導、執筆指導を行います。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育の内容と方法】

1-2 学年では、こころと身体の健康に関する内容を幅広く学び基礎力を高めるため、幅広い分野の専門基礎科目が開講されています。履修の分野が偏らないように、それぞれの分野の履修科目数が決

められています。また、複数の分野にまたがる内容の科目は、ブリッジ科目として設定してあります。3 学年以上では、各コースで開講されているより専門性の高い講義、演習、実験・実習を学び専門性を高めます。また、各コースは卒業論文作成に向けて研究指導、執筆指導を行います。

【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

生活健康学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

生活健康学コースでは、生活環境、生活習慣と生体機能の相互作用に関する内容の講義、演習、実験・実習を開講し、専門性を高めます。コースの必修科目が設定され、生活健康学関連の研究分野について深く学びます。また、卒業論文作成に向けて、研究指導、執筆指導を行いません。

【教育の内容と方法】

生活健康学コースでは、生理学、神経科学、人間工学、生化学などを基盤とし、生活環境や生活習慣と健康との関連に関する内容について講義、演習、実験・実習を行いません。実験・実習を通して、講義で学んだ内容の理解が深まるような授業内容になっています。

【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

スポーツ健康科学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

スポーツ健康科学コースでは、体育学・スポーツ科学に関する内容の講義、演習、実験・実習を開講し、専門性を高めます。コースの必修科目が設定され、体育学・スポーツ科学関連の研究分野について深く学びます。また、卒業論文作成に向けて、研究指導、執筆指導を行います。

【教育の内容と方法】

スポーツ健康科学コースでは、学際的な基礎知識・専門的知識及び実践的能力を基盤とし、体育学・スポーツ科学に関する内容について講義、演習、実験・実習を行います。実験・実習を通して、講義で学んだ内容の理解が深まるような授業内容になっています。

【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

臨床心理学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

1-2 学年で培った基礎的な知識をベースにして、講義や実習により、臨床領域をはじめとした人間の行動やこころのメカニズムを研究するための心理学的アプローチ法を学び、こころの問題を持つ人々への援助といった実践領域で専門性を活用・応用する方法を理解します。さらに少人数のゼミなどを通じて、研究方法やプレゼンテーション能力も身につけます。

【教育の内容と方法】

単に知識を身につけるだけではなく、それらの実践的な応用という観点から教育を行います。そのため、現実の問題について客観的に把握し、適切に対処していくための観察力やコミュニケーション力といった力も伸ばすようにしています。

【学習成果の評価の仕方】

授業形態に応じて、授業毎に設定された評価方法で評価を行います。評価の方法についてはシラバスに明示してあります。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

心身健康学科は、心と身体の健康と人間を取り巻く環境との相互作用についての総合的な知識や技能を身につけ、よりよい心と身体の健康と生活環境を提案することにより社会に貢献できる人材の育成をはかることを目指しています。教育内容は、心と身体の健康に関する内容を幅広く学び基礎力を高めるため、1-2 年次では健康に関連する多彩な専門基礎科目を学ぶとともに、生活環境学の総合的教育という学部理念に即して、つねに生活者の視点を失わないことも重視し、生活環境学に関する科目の履修を推奨しています。3 年次以上では、生活健康学コース、スポーツ健康科学コース、臨床心理学コースのいずれかのコースに所属し、より専門性の高い講義、演習、実験・実習を履修します。心身健康学科は、各コースの専門性を高めるだけでなく、他コースの専門科目を履修することを推奨し、領域横断的に人々の健康について専門性を高め、さらにグローバルな視野をもって問題解決をはかる人材を育成したいと考えています。

【求める学生像】

心身健康学科では、次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。

- (1) 健康に対する幅広い関心と、文理を問わず主体的に学習するための基礎的学力をもつ人
- (2) 心と身体の健康に関する諸問題を解決するために新たな認識・知識を獲得することに意欲的な人
- (3) 生活環境や社会環境、ならびに生活習慣と心身の健康について学んだ専門知識で社会貢献を目指す人

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および心身健康学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と、国語、数学、および理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに心身健康学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考（書類選考）と第2次選考（プレゼンテーションおよび質疑応答）によって合否を判断します。第1次選考の書類選考では、調査書、志望理由書、および小論文を提出します。小論文は3つのコースがあげられる課題の中から1つ選択します。第2次選考では小論文で選択しなかった2つのコースの課題から1つ選択し、プレゼンテーションを行い、質疑応答も含めて総合的に評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学、または日本語、総合科目、数学）、TOEFLの成績と、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに心身健康学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。心身健康学科は第3年次にコース配属になるため、小論文と口述試験はコース別を実施され、合否判定はコース別になります。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、各コースの勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、各コースにおける適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

生活環境学部 住環境学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

住環境学科では、学部全体で学生に習得させる能力に加え、住環境学に関する体系的なカリキュラムを通じて、日常生活から地球規模の問題に至るまでの多面的な観点から物事を考える能力と素養を身につけ、技術が社会や自然に及ぼす影響や効果や、技術者が社会に対して負っている責任を理解して、多様な環境と人間生活に対して種々の科学、技術および情報を利用して、社会の要求を解決するための能力を身につけた人材を養成することを教育の理念としています。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・住環境学、建築学の専門的知識とそれらを問題解決に応用できる能力を身につけている。
- ・論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力を身につけている。
- ・与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけている。
- ・チームで仕事をするための能力を身につけている。
- ・数学および自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力を身につけている。

【学位授与の形式的要件】

上述の資質・能力を身につけ、所定の年限以上在学し、所要の単位以上を修得し、所属教員の指導のもとでとりまとめた卒業論文もしくは卒業設計を作成して、卒業論文及び卒業設計の発表会で発表し、審査に合格した学生に学士（生活環境学）の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

人間と人間をとりまく環境や、快適で健康的な生活環境を考察するための教養を身につける基礎的な科目を学修した後、住居や建築の成り立ちや、そこで営まれる人間の諸活動、住居や建築の構造や物理的環境、維持保全、計画と設計に関する知識と技能を学修する必修の専門科目を学び、その上で、それらの内容をより高度に学ぶ選択必修や選択科目を選んで学ぶことで専門性を高め、最後に生活および生活環境に関わる各自の問題意識にもとづいた卒業研究または卒業設計を通じて、総合的にそれらを身につけます。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育の内容と方法】

生活、社会、環境について幅広く学ぶ講義系の科目に加え、各種情報を総合的に理解、分析、評価し、具体的な住居、建築、環境を計画できる能力や、立体的な造形能力、空間構成能力を養う設計演習系の科目と、建築技術に必要な数学、物理などの自然科学に関する知識や応用能力、情報処理に関する知識や技術を身につける演習科目もあり、高度な専門性を身につけることができます。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法（定期試験、レポート、授業での発表等）とその割合を明示します。学修成果の評価は、科目の特性に応じて、公正かつ的確に実施します。卒業論文および卒業設計は、提出された論文又は作品により評価します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

住環境学科は、生活や生活環境の企画・設計に関わるデザインや技術開発の能力、実務を遂行する能力をもつ人材の育成を目指しています。住環境学は、急速な社会変化をふまえて、ヒューマンスケールで環境を捉え、生活者の視点にたって、豊かで質の高い住環境を実現することを目指す領域です。したがって、住まい・地域・都市の計画・デザイン、音・光・熱・空気などの環境・設備、建物を支える構造・工法、建物をつくりだし維持する生産・施工・材料・管理の各分野を体系的に学び、社会が求める問題解決能力、実践的な創造力を身につけることを目標にしています。

【求める学生像】

住環境学科では、次のような資質および意欲をもつ学生を求めます。

- ・住まいと暮らしに興味があり、それらを理解する基礎学力（国語、地理歴史・公民、外国語）と建築学を学ぶための基本的な工学能力（数学、理科）がある人
- ・他者への思いやりと洞察力がある人
- ・生活者としての観点から、住まいと暮らしに新たな課題を発見し、それらを解決する方法を論理的思考力と感性的創造力に基づいて発見しようとする意欲がある人
- ・住まいづくり・地域づくりに興味があり、それらの分野において主体的・能動的な生活者および専門的な職業人として積極的に活動する意欲がある人
- ・住まいと暮らしに関して学んだ成果を、専門職・企業人・公務員・教員等として地域や社会に積極的に還元する意欲がある人

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および住環境学を学ぶために必要な学力が身につけているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入

学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、住環境学を学ぶ姿勢と、学んだことを主体的生活者や専門的職業者として地域や社会に還元する意欲を評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考(調査書、志望理由書)と第2次選考(データや資料の読み取り、ディスカッション)で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身につけているかどうか、住環境学に対する興味関心を評価します。第2次選考では論理的思考力や感性的創造力、主体的な生活者および専門的職業人として積極的に活動する意欲などを評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績(日本語、理科、数学)、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、住環境学に対する興味関心や、論理的思考力や洞察力、主体的な生活者および専門的職業人として積極的に活動する意欲などを評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験(英語、小論文)と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、住環境学の勉強・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、住環境学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書

なども参考にし、総合的に評価します。

生活環境学部 文化情報学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

文化情報学科は、SDGs に代表される現代社会・人間社会に関する理解と数理・情報を適切に活用する素養を兼ね備えた広い視野を持ち、かつ、人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する専門的スキルを有し、豊かな人間性と深い専門知識をもとに自ら考え議論をして提言し、より良い社会を希求し、豊かで活力ある未来を創ることができる女性人材を育成します。また、人間や生活を支える多様な価値観を理解し、うまくコミュニケーションできるスキルと、様々な社会生活における課題に専門知識をもとに取り組み、社会をより良く改善できる論理性、客観性、プレゼンテーション能力を有した女性人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・現代社会・人間社会に関する知識と数理・情報に関する知識
- ・各コースで提供する人文社会科学あるいはライフ・コンピューティングに関する深い専門性
- ・課題発見と課題解決・価値創造力
- ・社会で貢献するためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

生活文化学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

生活文化学コースは、女性リーダーに必要な教養を身につけ、広い視野と専門的スキルの両者を兼ね備えた人材を育成します。人間生活を支える多様な価値観を理解して、うまくコミュニケーションするスキルを学び、様々な社会生活課題に専門的知識で取り組み、社会に貢献できる人材を育成します。

【身につけるべき資質・能力】

・教養教育科目および専門教育科目を通じて、社会における様々な事象に対し、人文社会科学の分野横断的な視点から物事を捉える能力を身につけている

- ・高いレベルの専門的知識およびそれらを体系化する論理性、客観性を身につけている
- ・主体的学習者として、問題を発見し、その解決に向けた取り組みを卒論としてまとめる能力を身につけている
- ・習得した知識、論理性、分野横断的なアプローチなどの能力を社会の中で役立てる際に必要となるプレゼンテーション能力を身につけている

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、生活文化学コースの定める卒業要件を修め、卒業論文の審査を受け、合格した者に学士の学位を授与します。

生活情報通信科学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

生活情報通信科学コースでは、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する情報通信技術を開発し、社会に発信できる人材の育成を目的にしています。明確な問題意識に基づいて生活環境の課題を設定し、広い視野でその課題解決に主体的・積極的に取り組む意欲と、先端的情報通信技術を身に付け、問題解決を先導する人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・最先端のライフ・コンピューティングに関する幅広い知識
- ・生活環境における様々な問題を情報通信技術により解決する問題解決能力
- ・主体的に課題を捉え、計画的に実行し、課題解決を先導できる能力
- ・専門知識により社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

学部共通科目、学科共通科目、コース専門教育科目に区分されます。学部共通科目では生活環境学全般に関する基礎的事項を学びます。学科共通科目においては文化情報学に関連する授業科目を文理を問わず幅広く開講し、人文社会科学と数理・情報を含むライフ・コンピューティングの基盤的内容について幅広く履修することを求めます。コース専門教育科目については生活文化学コースについては人文社会科学について、生活情報通信科学コースについてはライフ・コンピューティングについて専門的に履修します。両コースとも卒業研究を必須とします。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育の内容と方法】

幅広い知識と活用力、深い専門性と課題解決・価値想像力、表現力を涵養するため、講義・実習・演習等の多様な教育が実施されます。学科共通科目でSDGsに代表される現代社会・人間社会に関する理解と数理・情報を適切に利活用する素養を兼ね備えた広い視野を身に付け、コース専門教育科目で人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する深い専門知識を修得します。文化情報学概論・文化情報学演習については、コースの区分けなく、学科全教員・全学生で授業を実施します。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

生活文化学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

教養教育科目と専門教育科目に大別されます。前者は基礎科目群と教養科目群に別れており、後者は、学部共通科目と学科専門科目に区分され、それぞれのカテゴリーから履修します。学科専門科目は、多彩な分野横断的科目を、基礎と発展的内容に分けて学年進行に合わせて設置しています。また課題発見・解決のためのデータ収集や分析スキルを学ぶための科目も2年次から設置し、コミュニケーション能力の涵養については初年次からアクティブ・ラーニング科目を設置しています。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育内容と方法】

分野の広さも大きな魅力ですが、それぞれの分野からたとえばジェンダー研究を学ぶというようにテーマを絞りつつ多角的な視点を確保するという学び方もできます。また、少人数教育も特色と言えます。何についてどう研究するか教員と相談しながら自分で決めていくのです。

【学習成果の評価の仕方】

成績評価基準は、試験、レポート等の課題提出など何をどのくらいの割合で評価するかを科目ごとにあらかじめシラバスに明示してあり、その方法で厳正に判定します。

生活情報通信科学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

文化情報学に関する共通教育科目群と、ライフ・コンピューティングの基盤となる先端的な情報通信技術の専門基礎科目とその応用を学ぶ発展科目を履修します。専門科目群は、最先端の情報通信技術とその応用技術、社会的側面を含む幅広い内容の科目で構成されています。

【教育の内容と方法】

生活情報通信科学コースでは、情報通信技術の粋を超え、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境の改善を先導する人材を養成します。複数言語のプログラミング、情報理論、ソフトウェア工学、人工知能、経営工学、プロジェクト管理など幅広い科目内容と、国家試験である情報処理技術者試験の取得を目指す実践的な学習内容となっています。科学的探究心、論理的思考力、計画的実行力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を実践的なプロジェクトチームによる学習や先端的な情報通信技術の科目を通じて学びます。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

文化情報学科は、SDGs に代表される現代社会・人間社会に関する理解と数理・情報を適切に活用する素養を兼ね備えた広い視野を持ち、かつ、人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する専門的スキルを有し、豊かな人間性と深い専門知識をもとに自ら考え議論をして提言し、より良い社会を希求し、豊かで活力ある未来を創ることができる女性人材を育成します。また、人間や生活を支える多様な価値観を理解し、うまくコミュニケーションできるスキルと、様々な社会生活における課題に専門知識をもとに取り組み、社会をより良く改善できる論理性、客観性、プレゼンテーション能力を有した女性人材を育成します。

【求める学生像】

生活環境や社会、人間に対する幅広い関心を持ち、文理を問わない分野横断的教養を身につけ、かつ人文社会科学またはライフ・コンピューティングに関する深い専門知識を身につけ、卒業後はそれぞれの分野でリーダーや専門家として活躍したいと考える意欲のある学生を求めます。大学入学後の学習は文理横断・文理循環的な内容となるので、高等学校でも文理を問わず幅広く主体的に学ぶことを求めます。

詳細はコースのアドミッション・ポリシーに記載します。

生活文化学コース

【教育理念】

生活文化学コースは、人文・社会科学領域の確かな教養を身につけ、課題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力を高め、地域・社会でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。そのため、社会学・歴史学・ジェンダー研究・法学・経済学・社会心理学・表象論など多様な分野を取りそろえ、学際性豊かな教育環境を提供しています。また、フィールド調査・アンケート分析・ディベート・比較・文献講読等の教育方法を通じて、歴史的視野と国際的視野を広げ、積極性・主体性を陶冶することを目標にしています。

【求める学生像】

生活文化学コースは、幅広い関心を持ち、卒業後は公務員・教員・企業人等として活躍したいとの意欲をもつ学生を求めます。専門領域を自由に選べますので、高等学校では、文理を問わず、得意科目を深く勉強しておいてもいいですし、全分野に目配りをしながらバランス良く学ぶというスタイルであってもかまいません。日頃から、できるだけ国際問題や時事問題に関心を持つようにしてください。英語は、専門教育や大学院進学にとどまらず、社会人になったあとのコミュニケーション・ツールとしても重要ですので、高校で十分に学習しておくことが望まれます。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および文化情報学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに文化情報学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜探究力入試「Q」では、第1次選考（調査書、志望理由書）と第2次選考（データや資料の読み取り、ディスカッション）で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身についているかどうか、生活文化学に対する興味関心の評価します。第2次選考では資料の読解力、論理構成力、発想の柔軟性、コミュニケーション能力、学ぶ意欲を評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によっ

て、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、総合科目、数学（コース1））、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに文化情報学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活文化学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活文化学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

生活情報通信科学コース

【教育理念】

生活情報通信科学コースは、現代社会のIT 基盤を構成しつつあるライフ・コンピューティングに焦点をあて、ライフ・コンピューティングに関する社会的背景と諸問題に取り組み、これを改善できる能力を身につけた人材の育成を目指しています。そのため、情報分野の基礎である情報理論、コンピュータハードウェアならびにプログラミングについて学びます。さらにシステムという観点から、コンピュータの構成とその上で動作するアプリケーションに関する知識と理解力を身につけると同時に、そのようなシステムを設計開発する手順についての理解を深めます。

【求める学生像】

生活情報通信科学コースでは、次のような学生を求めます。

- ・人々の生活を改善するためのICT（情報通信技術）全般に興味を持つ人
- ・ICTの専門的な知識を身につけ将来はICT の技術者研究者として社会に貢献したい人
- ・ICT分野はシステム開発からコンテンツ開発・配信まで幅広いため文系・理系を問わず、主体的に学習・研究に取り組める人

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および情報通信科学を学ぶために必要な学力が身につけているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考（調査書、志望理由書）と第2次選考（作品に関するプレゼンテーション＋質疑応答）で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身につけているかどうか、情報通信科学に対する興味関心を評価します。第2次選考では情報通信科学における特定の分野（プログラミングやコンテンツ開発等）の能力と実績を評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学）、TOEFL のスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活情報通信科学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活情報通信科学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

生活環境学部 情報衣環境学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

情報衣環境学科では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材と、現代の情報社会の環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、及び双方の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成することを目的としています。本専攻では、衣環境学コースと生活情報通信科学コースが有機的に連携して、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲が求められます。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・各コースで指定する高度な基礎学力
- ・問題発見と解決能力
- ・解決した課題を社会に還元する能力
- ・社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

衣環境学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

衣環境学コースでは、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材、及び衣と情報処理の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成することを目的としています。明確な問題意識に基づいて生活環境の課題を設定し、広い視野でその課題解決に主体的・積極的に取り組む意欲と、衣環境に関する技術を身に付け、問題解決を先導する人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- ・最先端の衣環境技術に関する幅広い知識
- ・衣環境や衣生活に関する問題解決のための研究を遂行する能力

- 主体的に課題を捉え、計画的に実行し、課題解決を先導できる能力
- 専門知識により社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

生活情報通信科学コースディプロマ・ポリシー

【学位授与の前提となる教育理念】

生活情報通信科学コースでは、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する情報通信技術を開発し、社会に発信できる人材の育成を目的にしています。明確な問題意識に基づいて生活環境の課題を設定し、広い視野でその課題解決に主体的・積極的に取り組む意欲と、先端的情報通信技術を身に付け、課題解決を先導する人材を育成します。

【身につけるべき「資質・能力」】

- 最先端のライフ・コンピューティングに関する幅広い知識
- 生活環境における様々な問題を情報通信技術により解決する問題解決能力
- 主体的に課題を捉え、計画的に実行し、課題解決を先導できる能力
- 専門知識により社会で貢献するためのコミュニケーション能力

【学位授与の形式的要件】

所定の年限以上在学し、カリキュラム・ポリシーに沿って設定された授業科目について所定の単位を修得し、コースごとに示す形式的要件を満たすことが課程修了の基準となります。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

履修内容は、衣と情報の学際的融合領域について学ぶ共通教育科目群と、コース別の専門科目群に分かれています。専門科目群については、衣とそれを取り巻く多様な周辺諸学を学ぶための基礎知識を習得する衣環境学コースと、時代の要請する先端情報通信技術の習得を目指す生活情報通信科学コースに分かれて履修します。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育の内容と方法】

情報衣環境学科では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材と、現代の情報通信社会を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、さらに双方の融合した先端の学際領域で活躍できる人材の育成を目的にしています。従って、衣環境学コー

スと生活情報通信科学コースの2つのコースを設けるとともに、共通科目を設定し互いに連携しあうカリキュラムに基づいて、より良い生活環境を創出する情報衣環境学の展開を目指します。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

衣環境学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

情報衣環境学に関する共通教育科目群と、衣とそれを取り巻く多様な周辺諸学を学ぶための専門科目群を履修します。専門科目群は、素材・デザイン・感性・管理に関する伝統的な被服諸学に加えて、被服の製作実習や物理・化学実験など充実した演習、衣や生活に関連した応用情報処理を含む幅広い内容の科目で構成されています。

【教育の内容と方法】

衣環境学コースでは、快適な衣生活を実現するためのアパレルの備えるべき特性について、アパレル素材の高機能化と高性能化、被服の企画・設計や生産性、着用によって低下した機能の回復に至る多面的な領域から、総合的に教育・研究します。衣や生活に関連した人間の五感やインタフェース、データ解析といった応用情報処理科目が充実している事も特色です。公的資格である繊維製品品質管理士（Textiles Evaluation Specialist=TES）の取得にも対応した実践的な学習内容となっており、科学的探究心、論理的思考力、計画的実行力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力ある人材を養成します。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

生活情報通信科学コースカリキュラム・ポリシー

【基本的なカリキュラム構造】

情報衣環境学に関する共通教育科目群と、ライフ・コンピューティングの基盤となる先端的な情報通信技術の専門基礎科目とその応用を学ぶ発展科目を履修します。専門科目群は、最先端の情報通信技術とその応用技術、社会的側面を含む幅広い内容の科目で構成されています。

【教育の内容と方法】

生活情報通信科学コースでは、情報通信技術の枠を超え、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境の改善を先導する人材を養成します。複数言語のプログラミング、情報理論、ソフトウェア工学、人工知能、経営工学、プロジェクト管理など幅広い科目内容と、国家試験である情報処理技術者試験の取得を目指す実践的な学習内容となっています。科学的探究心、論理的思考力、計画的実行力、問

題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を実践的なプロジェクトチームによる学習や先端的な情報通信技術の科目を通じて学びます。

【学習成果の評価の仕方】

開講科目は、シラバスにその成績評価の方法を明示します。卒業論文は、提出された論文と口頭試問により評価します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

情報衣環境学科は、生活のレベル向上や社会的弱者を支援することのできる技術と発想力をもつ人材の育成を目指します。今日、科学技術の進歩により生活の利便性が飛躍的に向上する一方、少子高齢化や地球環境破壊が大きな社会問題となっています。より快適・健康・安全な生活環境を創り出すには、生活の実態を捉えてその問題点を明らかにし、改善のための方策を行う力を身につけた人材が必要です。そのために、生活にとって必須の技術であり今後も大きな発展の可能性をもつ情報技術と、人体と共に移動するモバイル型の典型である衣服技術を融合させた教育を行います。

【求める学生像】

情報衣環境学科では、生活の視点から人類に役立つ技術に興味をもつ学生を求めます。衣服と情報のように一見異分野と思われるものを融合して学ぶことで、人類の生活を豊かにしようという意欲をもつ学生の入学を望みます。

詳細はコースのアドミッション・ポリシーに記載します。

衣環境学コース

【教育理念】

衣環境学コースは、衣環境に関する諸問題に取り組み、これを改善できる能力を身につけた人材の育成を目指しています。快適な衣環境を実現・維持するために衣服が備えるべき特性を、素材・デザイン・感性・管理の面から教えます。まず、生活者の視点に立って快適な衣服とは何かを考え、衣環境素材としての高分子、繊維および布の特性について学びます。その後、アパレルの設計と生産の観点から、衣服の構成の理解、衣服制作に必要な技能、コンピュータ支援ファッションデザインやウェアラブルコンピュータなどのフロンティア技術を習得して、衣の消費や管理を合理的に行うための知識と理解を深めます。

【求める学生像】

衣環境学コースは、文系・理系を問わず、人間にとって最も身近な環境を形成する衣服に興味をもち、関連分野の専門的職業人になりたいという意欲のある学生を求めます。授業の履修に支障なきよう、入学前に数学・物理・化学を履修、または自主学習しておくことが望まれます。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および衣環境学を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに衣環境学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考(調査書、志望理由書、小論文)と第2次選考(プレゼンテーションおよび質疑応答)で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身についているかどうか、衣環境学に対する興味関心を評価します。第2次選考では想像力、理解力、表現力などを評価します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績(日本語、理科、数学)、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに衣環境学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験(英語、小論文)と、口述試験により、合否を判定します。英

語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、衣環境学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、衣環境学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

生活情報通信科学コース

【教育理念】

生活情報通信科学コースは、現代社会のIT基盤を構成しつつあるライフ・コンピューティングに焦点をあて、ライフ・コンピューティングに関する社会的背景と諸問題に取り組み、これを改善できる能力を身につけた人材の育成を目指しています。そのため、情報分野の基礎である情報理論、コンピュータハードウェアならびにプログラミングについて学びます。さらにシステムという観点から、コンピュータの構成とその上で動作するアプリケーションに関する知識と理解力を身につけると同時に、そのようなシステムを設計開発する手順についての理解を深めます。

【求める学生像】

生活情報通信科学コースでは、次のような学生を求めます。

- 人々の生活を改善するためのICT（情報通信技術）全般に興味を持つ人
- ICTの専門的な知識を身につけ将来はICTの技術者研究者として社会に貢献したい人
- ICT分野はシステム開発からコンテンツ開発・配信まで幅広いため文系・理系を問わず、主体的に学習・研究に取り組める人

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および情報通信科学を学ぶために必要な学力が身につけているかどうかを評価し、可否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、個別学力検査として面接を実施し、可否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト（一般選抜前期日程と同じ科目）と、面接により、可否を判

定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考（調査書、志望理由書）と第2次選考（作品に関するプレゼンテーション＋質疑応答）で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身につけているかどうか、情報通信科学に対する興味関心进行评估します。第2次選考では情報通信科学における特定の分野（プログラミングやコンテンツ開発等）の能力と実績进行评估します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績（日本語、理科、数学）、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに情報通信科学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験（英語、小論文）と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活情報通信科学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活情報通信科学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。

生活環境学部 生活文化学科

—学位授与・教育課程編成・入学者受け入れの方針—

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

【学位授与の前提となる教育理念】

生活文化学科は、女性リーダーに必要な教養を身につけ、広い視野と専門的スキルの両者を兼ね備えた人材を育成します。人間生活を支える多様な価値観を理解して、うまくコミュニケーションするスキルを学び、様々な社会生活課題に専門的知識で取り組み、社会に貢献できる人材を育成します。

【身につけるべき資質・能力】

- ・教養教育科目および専門教育科目を通じて、社会における様々な事象に対し、人文・社会科学の分野横断的な視点から物事を捉える能力を身につけている
- ・高いレベルの専門的知識およびそれらを体系化する論理性、客観性を身につけている
- ・主体的学習者として、問題を発見し、その解決に向けた取り組みを卒論としてまとめる能力を身につけている
- ・習得した知識、論理性、分野横断的なアプローチなどの能力を社会の中で役立てる際に必要となるプレゼンテーション能力を身につけている

【学位授与の要件】

所定の在学期間在学し、授業科目の履修を通じて上記の資質・能力を身につけ、生活文化学科の定める卒業要件を修め、卒業論文の審査を受け、合格した者に学士の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

【基本的なカリキュラム構造】

教養教育科目と専門教育科目に大別されます。前者は基礎科目群と教養科目群に別れており、後者は、学部共通科目と学科専門科目に区分され、それぞれのカテゴリーから履修します。学科専門科目は、多彩な分野横断の科目を、基礎と発展的内容に分けて学年進行に合わせて設置しています。また課題発見・解決のためのデータ収集や分析スキルを学ぶための科目も2年次から設置し、コミュニケーション能力の涵養については初年次からアクティブ・ラーニング科目を設置しています。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。

【教育内容与方法】

分野の広さも大きな魅力ですが、それぞれの分野からたとえばジェンダー研究を学ぶというようにテーマを絞りつつ多角的な視点を確保するという学び方もできます。また、少人数教育も特色と言えます。何についてどう研究するか教員と相談しながら自分で決めていくのです。

【学習成果の評価の仕方】

成績評価基準は、試験、レポート等の課題提出など何をどのくらいの割合で評価するかを科目ごとにあらかじめシラバスに明示しており、その方法で厳正に判定します。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【教育理念】

生活文化学科は、人文・社会科学領域の確かな教養を身につけ、課題発見能力・問題解決能力・コミュニケーション能力を高め、地域・社会でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。そのため、社会学・歴史学・ジェンダー研究・法学・経済学・社会心理学・表象論など多様な分野を取りそろえ、学際性豊かな教育環境を提供しています。また、フィールド調査・アンケート分析・ディベート・比較・文献講読等の教育方法を通して、歴史的視野と国際的視野を広げ、積極性・主体性を陶冶することを目標にしています。

【求める学生像】

生活文化学科は、幅広い関心を持ち、卒業後は公務員・教員・企業人等として活躍したいとの意欲をもつ学生を求めます。専門領域を自由に選べますので、高等学校では、文理を問わず、得意科目を深く勉強しておいてもいいですし、全分野に目配りをしながらバランス良く学ぶというスタイルであってもかまいません。日頃から、できるだけ国際問題や時事問題に関心を持つようにしてください。英語は、専門教育や大学院進学にとどまらず、社会人になったあとのコミュニケーション・ツールとしても重要ですので、高校で十分に学習しておくことが望まれます。

【入学者選抜の基本方針】

一般選抜（前期日程）

前期日程では、大学入学共通テストと個別学力検査によって、高等学校卒業水準の基礎的学力および生活文化を学ぶために必要な学力が身についているかどうかを評価し、合否を判定します。大学入学共通テストは国語、地歴・公民、数学、理科、外国語の5教科7科目もしくは6教科8科目で、「理科2科目利用型」、「地歴・公民2科目利用型」の選択を可能にしています。個別学力検査は外国語と国語、数学、理科から1科目の計2科目です。大学入学共通テスト、個別学力検査とも理系、文系の双方に対応しています。

一般選抜（後期日程）

後期日程では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、個別学力検査として面接を実

施し、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力等を評価します。

学校推薦型選抜

学校推薦型選抜では、大学入学共通テスト(一般選抜前期日程と同じ科目)と、面接により、合否を判定します。面接では、高等学校における学習の達成度に留意しつつ、積極性や表現力、さらに生活文化学に対する興味関心、出願書類などにより評価します。

総合型選抜 探究力入試「Q」

総合型選抜 探究力入試「Q」では、第1次選考(調査書、志望理由書)と第2次選考(データや資料の読み取り、ディスカッション)で合否を判定します。第1次選考では高等学校卒業水準の基礎的学力が身につけているかどうか、生活文化学に対する興味関心进行评估します。第2次選考では資料の読解力、論理構成力、発想の柔軟性、コミュニケーション能力、学ぶ意欲进行评估します。

高大接続カリキュラム開発プログラムに基づく特別入試

奈良女子大学附属中等教育学校において、高大接続文理統合探究コースを受講し修得見込みの者を対象に、文理を統合した視点や、探究に必要な能力を身につけた人を選抜するために、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書、高大接続文理統合探究コースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力、課題発見・解決能力等を総合的に評価します。

私費外国人留学生入試

私費外国人留学生入試では、日本留学試験の成績(日本語、総合科目、数学(コース1))、TOEFLのスコアと、面接により、合否を判定します。面接では、積極性や表現力、さらに生活文化学に対する興味関心などにより評価します。

第3年次編入学入試

第3年次編入学入試では、筆記試験(英語、小論文)と、口述試験により、合否を判定します。英語では、英文を読んだ的確に内容を把握する力と日本語を適切な英語で表現する力をみます。小論文では、生活文化学の勉学・研究に必要な基礎知識、理解力、科学的思考力、創造性、文章表現力などを評価します。口述試験では、生活文化学における適性や明確な目的意識を持っているかなどを、志望理由書なども参考にし、総合的に評価します。